



ご挨拶

軽米高等学校同窓生の皆さまにおかれましては日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、本部では6月14日に総会、懇親会を開催され、その後6月22日には東京支部、12月15日に八戸支部、12月24日に九戸支部が総会開催、久しぶりに同窓生の皆様方との再会で相互の親睦・交流が図れたことをとても嬉しく思っています。また、盛岡支部は例年2月に開催されており、開催の招待を心待ちにしているところであります。支部の同窓生皆さまのお力を賜り、全支部で継続開催されておりますことに心から厚く御礼申し上げます。

年に1回の会報の発行ですが、生徒数の減少により同窓会会計も厳しさを増し、ここ数年はPTA会報と合冊発行し、同窓会の支部活動や在校生の皆さんの素晴らしい活躍を報告させていただいております。

軽米町でも人口減少や少子化が急速に進んでおり、現在の高校再編計画では2年連続して40人を下回ると学級減の対象とするとしており、軽米高校はすでにこの要件に該当しており、本年度も40人を下回り3年連続して定員に満たず、厳しい状況であります。

岩手県教育委員会は令和7年度中に新たな高校再編計画を策定し8年度から実施する予定と聞いています。再編計画の考え方によりますと、中高一貫校については地元中学の生徒数の推移を見ながら学級数を決めていくとしています。軽米町の昨年度の出生数は18人と急激に減少しており、町

内の生徒だけでは2学級維持は難しい状況で、八戸地区からの入学生確保のため、さらに力を入れているところであります。

こうした中、地域みらい留学制度で生徒確保の実績を上げている高校もあり軽米町としても新たに取り組みの必要性を感じています。

これまでも18歳までの医療費の無料化、路線バス通学者へのバス運賃の助成、副食給食の提供(給食費の一部助成)、外部講師による学習会開催、部活動支援、英語検定・漢字検定受験料の助成など子育て世代の負担軽減に力を入れてまいりましたが、新たに軽米町のご理解を賜り、新入生の制服の全額助成を決めて頂きました、軽米町当局に対しまして、心から感謝申し上げます。

また、ふるさと納税により軽米を応援していただいた皆様に対しまして改めて感謝申し上げます。

また、早いものでつい最近、創立70周年記念事業を終えたと思っておりましたが、3年後の令和10年には記念すべき創立80周年を迎えることとなります。同窓生、地域の皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、母校のたゆまぬご発展と同窓生の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

同窓会長(第27回生)

松浦満雄

支部会だより

東京支部

支部長(第34回生) 畑澤 康 弘



日頃より、東京支部活動にご理解とご支援を賜わり厚くお礼を申し上げます。

2024年6月22日(土)令和6年度 第59回 岩手県立軽米高等学校同窓会東京支部総会及び懇親会がアートホテル日暮里ラングウッド『丹頂』にて開催されました。今回は、町長という立場では、内澤昭治町長以来30年ぶりの現・山本町長様もコラボ参加、今回も前回同様同窓会枠を取っ払い繋がりを大事にしました。ハイキューオタク・軽米大好き人間・姫が森牧場会長・田澤工務店取締役社長・いわて酒場久世女将さん、久慈地区高校東京同窓会様・普代村ふるさと会様コラボ参加者も7名母校から野里拓郎副校長・同窓会事務局大家武則先生・1番若い方は52回生(41歳)の方レジェンド会員は15回生(78歳)総勢44名。お忙しい中お集まりいただき役員・スタッフ共々嬉しく思います。誠にありがとうございます。余興では「軽高常識クイズ」で盛り上がりました。定番の問題から先生方もわからない問題も、副校長先生からこちらの問題集頂けますかと言わしめる問題集がはまったようです。正解者には豪華賞品が、ほとんどの方が賞品選びに行かれるときは、満身の笑みがこぼれておりました。また途中、ウクレレ演奏もありしっとり癒されつつ、近況のお話、再会に会話がはずみ笑顔があふれておりました。楽しい時は「あっ」という間に過ぎメインイベントの校歌斉唱に出席者の大半の人の脳裏には恐ろしい応援歌練習もよぎりました。それでも松浦議長のエールで全員の心が一つになり歌いあげました。校歌とは在学中は、歌えというから歌う、行事のための歌のように思っていました。今歌うとなんともいえない郷愁の念がわきあがります。そうです、校歌は卒業してから、故郷を離れてから、忘れえぬ歌になるのではないのでしょうか！目頭をあつくしている方、涙してる方もいらっしゃいました。余談ですが今回は、軽米高校同窓会東京支部ののぼり旗を新調しました。また東京支部ボールペンを受付で出席者全員にお配りしました。その後、集合写真を撮影し盛會裡に幕を閉じました。もちろん時間の許す方、話足りなかった方は、二次会～三次会へ噂では四次会もあったとか？今年の東京支部のモットーである繋がり・絆・再会に笑みを、が継承された事を実感しました。次回は令和7年6月7日(土)開催予定です、会場は同じ会場です。今年、参加できなかった方、ぜひご都合あわせてお誘いあわせの上参加いただきお会いできる事役員・スタッフ共々、楽しみにお待ちしております。



【東京支部 支部活動】

皆様のお住いの軽米高校同窓会支部活動は、同窓会当日だけの活動でしょうか。

東京支部では、同窓会の他にも企画・イベント・SNS(グループLINE)・Facebook等で年代を越えた繋がり・絆を大切に癒しをモットーに活動しております。

① 毎年1月もしくは2月に都内で「っかけを食す会」とボーリング大会

ふるさと軽米のソウルフードとも言えるっかけ他郷土料理を食べながら楽しい時間を共有しました。もちろんボーリング大会も運動不足解消を含め先輩・同級生・後輩の交流の促進が出来ると思います。

② 「軽米町秋祭り」 流し踊りに軽米高校同窓会東京支部・在京軽米会としてエントリー

地元の方、繋がりに賛同してくれる方々と一緒に繋がりの構築と町の盛り上げも兼ねて参加(18名)

山車引きも参加しています。流し踊り後は、お疲れ様会・懇親会で更なる親睦を深めます。

③ 軽米高校の生徒さんと大黒醤油さんとのコラボ商品

【ひとくちで恋に落ちるEgoma万能たれジュネッシング】

いわて銀河プラザ販売・告知・激励応援

④ バレーボール小学生大会全国大会・軽米VBSS町田市総合体育館会場にて応援

⑤ 広報かるまい『在京便り』にて隔月掲載24名寄稿文掲載ふるさと軽米への想い。企画イベント等々

⑥ グループライン軽米高校同窓会東京支部を開設・自由参加・退会自由 高校の話題・ふるさと話題で盛り上げとコミュニケーションツールとして利用

⑦ 「集おう・語ろう・繋がろう」 再会に笑みをモットーに邁進してまいります。

⑧ 岩手銀河プラザ「軽米ぶらんど展」大黒醤油・尾田川農園・古館製麺所・「畑澤りんご園」出店・購入情報シェア他年間を通して応援

現会員が高齢化に伴い退会する者が少ない状況にあり、新規会員の加入もままならず、このままの状況が続けば、同窓会活動はじり貧になることは目に見えています。このような状況を打破し、これからの同窓会の担い手となる会員の増員のための方策が喫緊の課題となっています。東京支部の取り組みが参考になるかは不明ですが他支部の参考になって下さればと思います。記載してみました。

会員名簿と個人情報について

個人情報保護法が制定されて以降個人情報の保護及び適正な取り扱いが求められるようになり、氏名、住所、電話番号など特定の個人を識別することができる情報を掲載することが困難になっています。会員同士が連絡を取ろうとしても、名簿にはそれらの情報が掲載されていなかったり、居所不明のままになっているものもあり、名簿自体の効用が失われてきているとも言えます。今後、この名簿の作成をどのようにするか、会員増員対策とは別に検討していく必要があります。

支部会員への勧誘について

各支部においては、いかに会員増を図るか頭の痛いところですが、同級生、同期生、部活動OBが集まるときに積極的な勧誘をする。地域・地区のイベントや町おこし等の行事を通して仲間の結集を図るなど、あらゆる場、あらゆる機会を通じて加入促進を働き掛けていく必要があります。そのためには役員・スタッフが直接お誘いの声をかけることが一番であります。集まりや行事に参加すればその楽しさが実感でき、気心も知れてきますが、主催する支部側には、参加しやすい雰囲気づくり、魅力ある催し物の実施が望まれるところであります。女性の同窓生が集い、親睦と融和が図れるよう女子会「レディース・ピオラ」の活動がスタートも考慮し仕事のこと、育児のこと、介護のこと、病気のことなど女性同士が語り合える場をつくり、女性卒業生の同窓会への関心が高まるよう期待するところです。今後とも、女性同窓生みずからが立ち上げた「レディース・ピオラ」を継続し、そのためのPRと勧誘を積極的に支援していく必要があると思います。

九戸支部

事務局(第30回生) 池田 廣志

令和7年1月24日(金)、九戸村内「お食事処 なかつる」を会場に越年とはなりましたが、「令和6年度 軽米高等学校同窓会九戸支部総会」を開催いたしました。

急な日程にもかかわらず、亀山校長先生、松浦会長、中村副会長、茶屋監事、安藤様、事務局 大家先生のご出席を賜り、九戸支部より坂本支部長他会員7名の総勢14名にての開催となりました。

同窓会長 松浦様よりご挨拶をいただき、亀山校長先生、事務局 大家先生より学校及び同窓会の活動状況をご報告いただき、少子化による生徒減少傾向に憂慮しつつも学業はもとより部活動をはじめとする後輩諸君の活動活躍に感心しきりでした。総会においては支部活動についてご報告申し上げ、各議案についてご承認をいただきました。

総会後の懇親会は、大変にぎやかで楽しいものとなりました。恒例の自己紹介の場面では在学中の懐かしい話や、諸先輩の武勇伝に大盛り上がりでした。当時のことを楽しそうに話す先輩方は、軽米高校OBというよりは今青春を、高校生活を楽しむ現役の高校生ようで、いかに充実した高校生活であったかが伝わってきました。支部総会開催にご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

九戸支部は決して大きな所帯ではありません。隣村の小さな支部ではございますが今後につきましても、これまでのご縁を大切に、高校・同窓会本部のご指導をいただきながら、少子化・生徒減少の中で一生懸命頑張っている後輩諸君の活躍を見守っていきたく思っております。今後ともよろしく願いいたします。



八戸支部「バスケットと駅伝の二刀流」の高校時代

事務局長(第26回生) 藤原 正幹

私は2代目兼田支部長と共に平成30年から事務局の仕事をしていただいております。

高校生時代の思い出は、部活とほんの少しの生徒会活動です。その当時は、久慈・大野・軽米の合計5校中2校が県大会に出場できる時代で、代々久慈高校と軽米高校が県大会の常連でした。「打倒久慈高!!」を目標に頑張っていました。1年生の時に県大会に参加して、今では当たり前前の透明のゴールボードを見て「オー凄いなー!!」と感動した記憶があります。

そして、正月の風物詩でもある全国高校生駅伝大会の県予選に、バスケット部ではありましたが、その当時陸上部の福井巖先生から「1番短い距離を走ってくれないか」と頼まれ、叔父の茶

屋隆からも推薦があり参加しました。今、思い返せば軽高の運動会の種目に八幡様までのロードレースがあり、1年生ではトップでゴールしたことが福井先生の目に留まったのだと思います。その福井先生の指導の熱意はもの凄かったです。毎朝6時に自宅に迎えに来ていただき、その後ロードランニングに1時間付き添ってもらいました。大会までかなりの日数練習した覚えがあります。あの時の精神力・忍耐力が今の仕事にとっても役立っています。

生徒会活動は、体育館で行った生徒総会で進行役の議長に推薦され、議事を進行しました。ちなみに議長権限でその時の彼女を副議長に指名した覚えがあります。今では考えられないような無茶ぶりをしていましたね(笑)。軽米高校で学んだ人間関係の作り方や、高校時代から人と話すことが楽しかったことが今の仕事に生かされています。

21歳から働ムジコ・クリエイティブ八戸モータースクールで、車の運転講習や学科教習、その後の仕上がり具合のチェックの技能検定等の仕事をさせていただいています。全車種を担当していましたが、60歳を境に自動二輪の教習は引退しました。現在はシニアスタッフとして高齢者講習、免許証を取り消された方の再教育等に携わっています。この仕事の資格取得者は数が少なく、会社からは重宝されています。体が動ける間は続ける予定です。

この会社に入るには、学歴より無事故・無違反が必要な条件でした。私は「昭和49年4月10日」に高校1年で原付免許を、入社後全車種(一種・二種)の免許を取得し、現在50年間無事故・無違反を続けています。それは、佐々木校長先生(S49.4.1~51.3.31)からの校長室での言葉のおかげだと思っています。その言葉が現在まで私のからだに焼き付いて忘れられません。今でも感謝しています。

当時原付は道路交通法では乗車用ヘルメットの着用義務はありませんでしたが、軽高では義務でした。原付免許取り立ての私はノーヘルで運転中、大町のバス停に佐々木校長先生がいることに気がつき、すぐにUターンをして自宅に戻り、ヘルメットを着用していない旨を学校に謝罪しました。佐々木校長先生から「明日、校長室に来るように」と言われ、「ヤバい、停学かもしれない」と焦りましたが実際は、「今後気を付けて安全運転するように!!」との言葉だけでした。処分ではなく私への心に残る教育だったんだと、そして「安全とは?」の意味深い内容を教えていただいたような気がします。あの時の経験が今の仕事の原点になっています。

今年も軽高生(会社のお客様)がたくさん入学していただきました。お世話するのも45年目となります。微力ではありますが、軽高生の皆さまに交通教育を通じて「安全とは?」を、また、私のモットーである山本五十六さんの名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」を手本に仕事を頑張っていきます。

結びに、軽高のたゆまぬ発展と同窓生の皆さま方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



盛岡支部

(第39回生) 神久保 貴 幸

令和元年3月、軽米高校を卒業して岩手県職員として勤務しています。採用から8年間は、二戸管内が勤務先で、実家から通勤していましたが、それ以降は、県庁が多く、現在は滝沢市の住居から、県庁の教育委員会教育企画室に勤務しています。業務の関係で、軽米高校には何度も足を運ぶ機会がありますが、懐かしさと、生徒数の減には寂しさを感じています。

ところで、教育企画室には、正職員44名勤務しているのですが、昨年度は、軽米高校の卒業生が5名もあり、一大勢力?とびっくりです。まだまだ、県職員で勤務している卒業生を分かっていないかと反省です。

軽米高校時代は、木野下先輩に誘われ、陸上部に所属していたのですが、卒業後は陸上から遠ざかり、子どもの体力作りのためにと一緒にジョギングを再開。軽米町ロードレース大会や元旦マラソンに参加していたら、大清水先輩に声をかけていただき、3年前に高校以来32年ぶりに日報駅伝を走らせていただきました。これを機会に軽米町陸上競技協会へ久しぶりに復帰し、諸先輩方にお会いする機会が増え、大変感謝しております。

そのような中、恥ずかしながら、昨年度初めて盛岡支部総会に参加させていただき、諸先輩方をはじめ、皆様の武勇伝をお聞きでき、楽しいひとときを過ごすことができました。是非皆さんも近くの支部総会に参加いただき、思い出話等に花を咲かせていただければ幸いです。

盛岡支部 「県警軽米会」

(第55回生) 工 藤 祐 司

私は現在、岩手県警の警察官として勤務しておりますが、当県警職員で構成する「県警軽米会」の事務局を務めており、今回は、この県警軽米会について紹介したいと思います。

まず、会の構成員ですが、軽米町出身者はもちろんのこと、他市町村出身でも軽米高校の卒業生であることを基本としており、現在の会員は現職30名、OB8名の計38名で、約7割が軽米高校の卒業生です。OBの中には、部長や警察署長を歴任した方々がおり、県警の中でも一目置かれる存在です。

会としては、年に1度、近況報告会(ただの飲み会ですが・・・)、退職者があれば送別会を開催しており、当然ながら酒がすすめば軽米訛りが炸裂し、ふるさと談義に花が咲きます。そして、何よりも軽米に関係する者としての絆と連帯感が生まれ、お互い励まし合いながら職務に励んでいる次第です。

今後も、県警軽米会会員一同、軽米高校はもとより軽米町の発展を願い、その一助となれるよう結束を強めていきたいと思っておりますし、後輩の皆さんが岩手県警の職員に採用され、仲間が増えることを期待しております。

同窓会 事務局だより

〈令和6年度 同窓会総会〉

今年度の同窓会総会及び懇親会は、6月15日(金)総合会館滝村屋で開催されました。出席数は総会21名、懇親会18名(学校事務局含む)でした。また、来賓として軽米町長の山本賢一様にもご出席を賜りました。

議事では、総会開催の周知方法について意見が出されました。理事へは文書で、会員の皆さまへは広報お知らせ版、学校ホームページ等でお知らせをしておりますが、物的PRより皆さまのお声かけが一番効果的だと思いますので、御協力のほどお願い申し上げます。

令和7年度の総会も6月の開催予定です。母校発展、母校の存続には、同窓会活動のさらなる活発化が欠かせないものであります。今後とも会員皆さまの御協力をお願い申し上げます。



〈令和6年度 活動報告〉

- 令和6年4月8日(月) 入学式
- 5月16日(木) 常任理事会
- 6月14日(金) 同窓会総会(瀧村屋)
- 22日(土) 東京支部総会(アートホテル日暮里ラングウッド)
- 12月15日(日) 八戸支部総会(レストランきのう)
- 令和7年1月24日(金) 九戸支部総会(お食事処なかつる)
- 2月28日(金) 同窓会入会式(卒業記念品贈呈)、会報51号発行

令和5年度～令和6年度 〈本部役員〉

会 長	松 浦 満 雄
副会長	中 村 正 志
”	千 葉 千 賀
”	小 林 福 正
”	小 林 浩 浩
”	江 刺 家 雅 弘
監 事	茶 屋 隆 隆
”	木 戸 口 春 彦